

市内遺跡発掘調査

(旧高城町内遺跡発掘調査)

2006

都城市教育委員会

序

平成18年1月1日。西に霧島連山を望む都城盆地にて
都城市、山之口町、高城町、山田町、高崎町が合併。
新「都城市」となりました。

本書は国・県の補助を受け、平成17年度に旧高城
町域で実施した埋蔵文化財発掘調査の記録です。各種
開発予定地にて文化財の有無を判断する確認調査を行
い、協議における基礎資料としました。

この報告書が行政の一資料としてだけでなく、生涯
学習の場などで市民の方々に広く活用され、埋蔵文化
財に対するご理解を深める一助となれば幸いです。

最後になりましたが、多大なるご協力を賜りました
各関係機関並びに地域の皆様方に心から深く感謝
を申し上げます。

平成18年3月

都城市教育委員会

教育長 玉利 謙

例　言

- 1 本書は高城町教育委員会及び都城市教育委員会が平成17年度に、文化庁及び宮崎県教育委員会の補助を受けて実施した市内遺跡発掘調査の報告書である。
- 2 調査は平成17年4月1日～12月31日までを高城町教育委員会が、市町合併に伴い平成18年1月1日～3月31日までを都城市教育委員会が主体となり、宮崎県教育委員会の指導のもとに実施した。
調査組織は次のとおりである。

平成17年4月～12月

主　体　高城町教育委員会

教育長　内田國昭

社会教育課課長　江内谷満義

同課長補佐　新地安弘

同文化係長　永峰キヌ子(庶務)

同主事　近沢恒典(調査)

指導　宮崎県教育庁

文化財課主査　飯田博之

平成18年1月～3月

主　体　都城市教育委員会

教育長　玉利　謙

教育部長　今村　昇

高城生涯学習課課長　飯盛幸一

同主幹　新地安弘

同主事　近沢恒典(調査・庶務)

指導　宮崎県教育庁

文化財課主査　飯田博之

調査作業員　窪田エミ子　黒木征子　黒木トミ子　野中治男　増元鈴子　植木崎時男

整理作業員　尾曲真貴

- 4 遺構の実測、写真撮影は近沢恒典が行い、調査区全体の測量は有限会社日邦測量に委託した。遺物の実測は近沢恒典、尾曲真貴が行い、遺物の写真撮影は近沢恒典が行った。

報告書の執筆・編集は近沢恒典が行った。

- 5 調査にあたっては有水たばこ生産組合、高城町役場農林振興課、NTT ドコモ九州、株式会社志多組並びに土地所有者の協力を得た。また宮崎県教育庁文化財課、宮崎県埋蔵文化財センター、都城市教育委員会文化財課を始め　多くの方々よりご教授、ご助言をいただいた。記して感謝申し上げます。

本文目次

I	葉たばこ反転客土事業に伴う埋蔵文化財確認調査	2
1	豊広遺跡	5
2	下野遺跡	8
3	中野第1遺跡	11
4	久井ヶ野第1遺跡	15
5	上原遺跡群	19
II	NTTドコモ携帯電話無線基地局建設に伴う埋蔵文化財確認調査・三俣城址	23
	報告書抄録	26

挿図目次

第1図	調査地位位置図(1/50,000)	1
第2図	葉たばこ反転客土事業調査地位位置図I(1/10,000)	3
第3図	葉たばこ反転客土事業調査地位位置図II(1/10,000)	4
第4図	豊広遺跡トレンチ配置図(1/1,000)	5
第5図	豊広遺跡トレンチ土層図(1/60)	6
第6図	豊広遺跡2号トレンチ遺構分布図(1/100)	6
第7図	豊広遺跡出土炉穴実測図(1/40)	8
第8図	下野遺跡トレンチ配置図(1/1,000)	9
第9図	下野遺跡トレンチ土層図(1/60)	11
第10図	中野第1遺跡トレンチ配置図(1/1,000)	11
第11図	中野第1遺跡トレンチ土層図(1/60)	12
第12図	中野第1遺跡出土遺物実測図(1=1/4 2=1/1 3=1/3)	13
第13図	久井ヶ野第1遺跡トレンチ配置図(1/1,000)	15
第14図	久井ヶ野第1遺跡トレンチ土層図(1/60)	16
第15図	久井ヶ野第1遺跡1号トレンチ遺構分布図(1/100)	17
第16図	久井ヶ野第1遺跡出土陷穴実測図(1/30)	17
第17図	上原遺跡群トレンチ配置図(1/1,000)	19
第18図	上原遺跡群トレンチ土層図I(1/60)	20
第19図	上原遺跡群トレンチ土層図II(1/60)	21
第20図	三俣城址調査地位位置図(1/5,000)	23
第21図	三俣城址トレンチ配置図(1/1,000)	24
第22図	三俣城址トレンチ土層図(1/60)	24

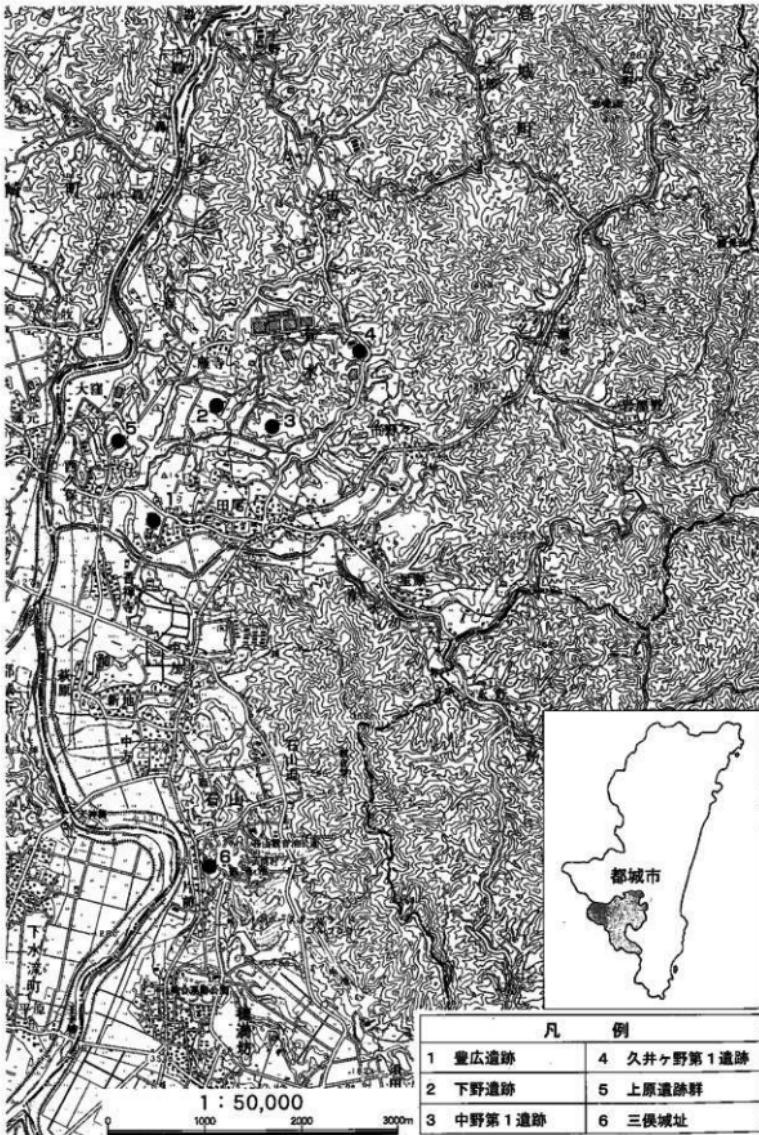
表目次

表1	たばこ反転客土事業に伴う埋蔵文化財確認調査地	2
表2	中野第1遺跡出土土器観察表	13
表3	中野第1遺跡出土石器観察表	13

図版目次

図版 1	豊広遺跡調査区全景	7
図版 2	豊広遺跡1号トレンチ・アカホヤ火山灰	7
図版 3	豊広遺跡1号トレンチ	7
図版 4	豊広遺跡2号トレンチ	7

図版 5	豊広遺跡 2号トレンチ・炉穴	7
図版 6	豊広遺跡 3号トレンチ	7
図版 7	豊広遺跡 5号トレンチ	7
図版 8	豊広遺跡 6号トレンチ	7
図版 9	下野遺跡全景	10
図版 10	下野遺跡 1号トレンチ	10
図版 11	下野遺跡 2号トレンチ土層	10
図版 12	下野遺跡 4号トレンチ	10
図版 13	下野遺跡 5号トレンチ	10
図版 14	下野遺跡 7号トレンチ・アカホヤ火山灰	10
図版 15	下野遺跡 7号トレンチ	10
図版 16	下野遺跡作業風景	10
図版 17	中野第1遺跡全景	13
図版 18	中野第1遺跡 2号トレンチ	13
図版 19	中野第1遺跡 4号トレンチ	14
図版 20	中野第1遺跡 6号トレンチ土層	14
図版 21	中野第1遺跡 6号トレンチ土器出土状況	14
図版 22	中野第1遺跡 7号トレンチ	14
図版 23	中野第1遺跡作業風景	14
図版 24	中野第1遺跡出土遺物Ⅰ	14
図版 25	中野第1遺跡出土遺物Ⅱ	14
図版 26	中野第1遺跡出土遺物Ⅲ	14
図版 27	久井ヶ野第1遺跡全景	17
図版 28	久井ヶ野第1遺跡 1号トレンチ	17
図版 29	久井ヶ野第1遺跡 1号トレンチ・陥し穴	18
図版 30	久井ヶ野第1遺跡 1号トレンチ・陥し穴逆木	18
図版 31	久井ヶ野第1遺跡 2号トレンチ・アカホヤ火山灰	18
図版 32	久井ヶ野第1遺跡 3号トレンチ・霧島御池軽石	18
図版 33	久井ヶ野第1遺跡 4号トレンチ	18
図版 34	久井ヶ野第1遺跡 5号トレンチ・霧島御池軽石	18
図版 35	久井ヶ野第1遺跡 6号トレンチ・アカホヤ火山灰	18
図版 36	久井ヶ野第1遺跡 6号トレンチ	18
図版 37	上原遺跡群全景	22
図版 38	上原遺跡群 1号トレンチ	22
図版 39	上原遺跡群 2号トレンチ	22
図版 40	上原遺跡群 4号トレンチ・アカホヤ火山灰	22
図版 41	上原遺跡群 5号トレンチ	22
図版 42	上原遺跡群 12号トレンチ土層	22
図版 43	上原遺跡群作業風景	22
図版 44	三俣城址全景	25
図版 45	三俣城址 2号トレンチ	25
図版 46	三俣城址 2号トレンチ土層	25
図版 47	三俣城址 3号トレンチ	25
図版 48	三俣城址 4号トレンチ	25
図版 49	三俣城址作業風景	25
図版 50	三俣城址出土遺物	25



第1図 調査位置図(1/50,000)

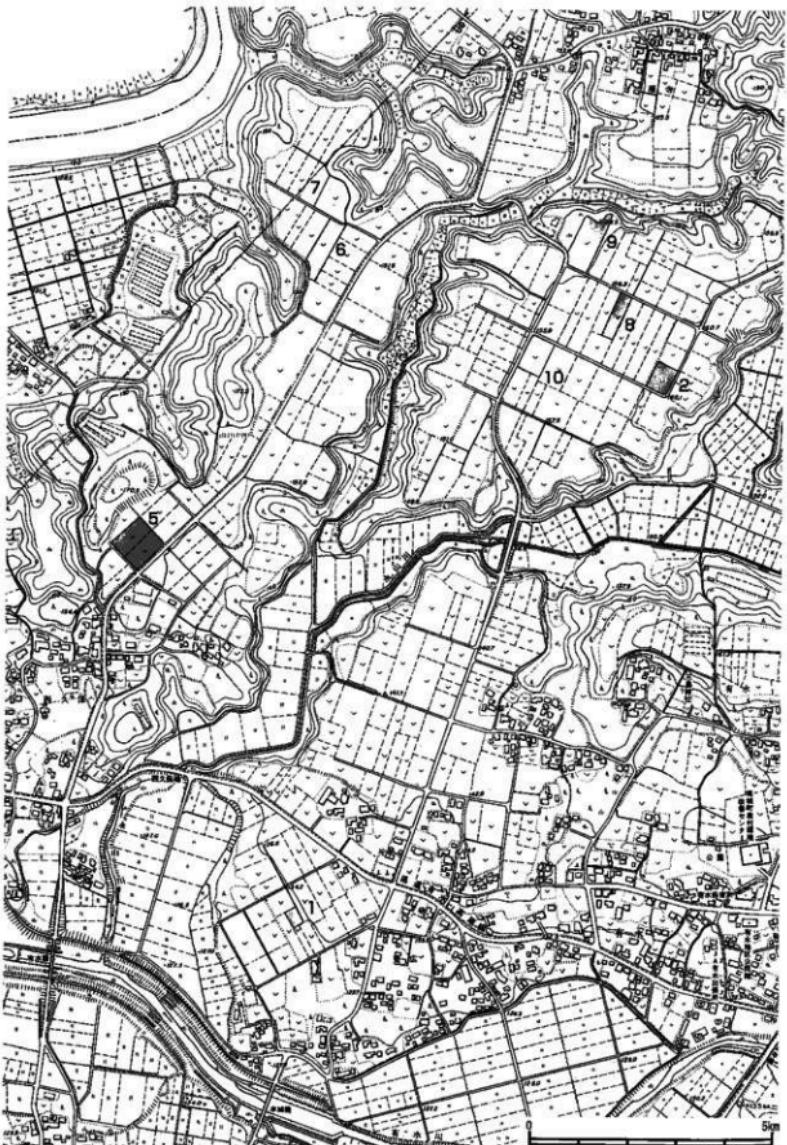
I 葉たばこ反転客土事業に伴う埋蔵文化財確認調査

調査に至る経緯

本確認調査は高城町有水たばこ生産組合が計画した平成17年度葉たばこ反転客土事業に起因する。平成17年6月、高城町農林振興課を通じ高城町有水たばこ生産組合より平成17年度葉たばこ反転客土事業予定地内における埋蔵文化財の所在について照会があった。事業予定地は南北に細長い旧高城町域のほぼ中央、旧高崎町との町境であった大淀川の東岸に位置する有水地域に広がる台地群上に所在し、いずれも周知の文化財埋蔵地内であった。また当台地群内では平成4年度から平成12年度にかけて実施された県営は場整備事業細井地区や平成10年度葉たばこ反転客土事業等に伴い発掘調査が行われており、縄文時代後期住居跡群、中世掘立柱建物群等が出土している。そのため重要な遺跡が存在している可能性が高く、高城町有水たばこ生産組合、高城町農林振興課、高城町教育委員会の3者間において慎重な協議が進められ、既存の作物の収穫を待って全ての予定地において確認調査を実施することとなった。

表1 たばこ反転客土事業に伴う埋蔵文化財確認調査一覧

No.	遺跡名	地番	調査期間	出土遺構	出土遺物	備考
1	疊広遺跡	都城市高城町有水2668番地4	平成17年9月26日～28日(3日間)	炉穴	—	
2	下野遺跡	都城市高城町有水2317番地1 都城市高城町有水2317番地2	平成17年9月29日～10月5日(5日間)	—	—	
3	中野第1遺跡	都城市高城町有水3217番地2 都城市高城町有水3217番地3	平成17年10月6日～12日(4日間)	—	土器片・石器 ・鐵石	
4	久井ヶ野第1遺跡	都城市高城町有水3973番地1 都城市高城町有水3898番地	平成17年10月19日～24日(4日間)	廐し穴	—	
5	上原遺跡群	都城市高城町有水1331番地2 都城市高城町有水1331番地3	平成17年11月17日～22日(5日間)	—	—	
6	上原遺跡群	都城市高城町有水1452番地5 都城市高城町有水1452番地6	平成16年度調査	—	—	「町内遺跡発掘調査報告書V」
7	上原遺跡群	都城市高城町有水1452番地17	平成16年度調査	—	—	「町内遺跡発掘調査報告書V」
8	下野遺跡	都城市高城町有水2311番地1	平成15年度調査	—	—	「町内遺跡発掘調査報告書IV」
9	下野遺跡	都城市高城町有水2297番地4 都城市高城町有水2297番地11	平成16年度調査	—	—	「町内遺跡発掘調査報告書V」
10	下野遺跡	都城市高城町有水2324番地1	平成16年度調査	—	土器片	「町内遺跡発掘調査報告書V」
11	中野第1遺跡	都城市高城町有水3238番地1	平成16年度調査	—	—	「町内遺跡発掘調査報告書V」
12	中野第1遺跡	都城市高城町有水3210番地4	平成16年度調査	—	土器片	「町内遺跡発掘調査報告書V」
13	田辺第1遺跡	都城市高城町有水2118番地67 都城市高城町有水2118番地68 都城市高城町有水2165番地3	平成16年度調査	—	—	「町内遺跡発掘調査報告書V」



第2図 葉たばこ反転客土事業調査地位置図(1/10,000)



第3図 葉たばこ反転客土事業調査地位置図II(1/10,000)

1 豊広遺跡

位置と環境

都城盆地は宮崎県の南西部、宮崎平野と鹿児島湾や大隅半島とのほぼ中央に位置し、霧島火山群と那珂山地との間に形成されている。南北に細長い盆地内を大淀川が北へと貫流し、中央の低地を取囲むように成層シラス台地、シラス台地群が発達している。今回、事業が計画された都城市高城町有水地域の台地群はその北東端にあたり、九州山地－南那珂山地間に隆起し宮崎平野と都城盆地とを隔てる小起伏山地帯に接する部分にある。また当台地群の西、南には大淀川とその支流有水川が位置しており、台地を刻む多数の谷はいずれも両河川へと至る。範囲は南北約5km、東西約4kmを測る。

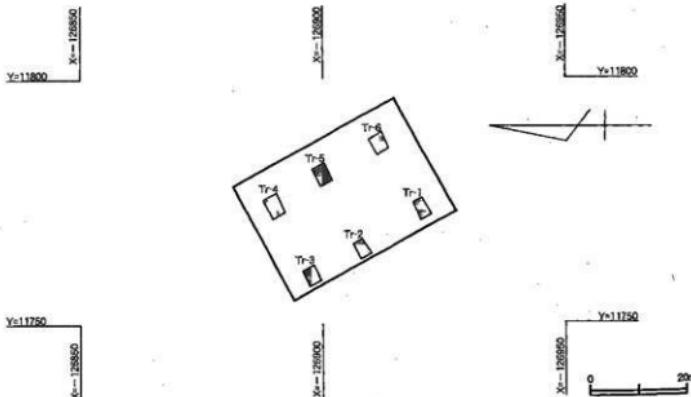
「豊広遺跡」は有水地域に広がる台地群の南端、大淀川より東へ約1km、有水川より北へ約0.3kmに位置する。南北約2,000m、東西約800mの東西に長い成層シラス及びシラス台地とその南側に形成される河岸段丘上に立地している。標高は約140～170m、東端の最高地より南西へ向け序々に高度を下げつつ河岸段丘を抜け、有水川へと至る。「町内遺跡分布調査報告」(1998高城町教育委員会)において台地、河岸段丘の西側1/3程度が縄文時代～古墳時代の遺物散布地として記録されている。台地上の中央～東側にかけても多数の遺跡が確認され、その大部分は周知の埋蔵文化財包蔵地となっている。事業予定地は遺跡範囲内のやや南側、河岸段丘上にあり現在は畠地として利用されている。

調査の内容

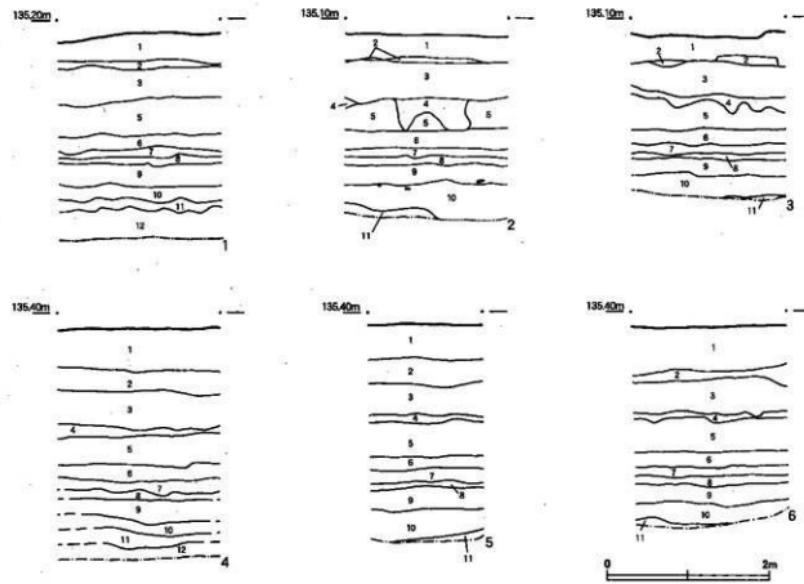
2m×3mを基本とするトレンド6本を設定し、調査の進行に従い1～6号トレンドと命名した。いずれも重機を使用して掘下げ、調査員と作業員により遺構・遺物の確認を行った。

各トレンドとも耕作土直下より上位を削平された霧島御池軽石(2層)が検出されたが、同層より下位においては良好な状態を保っていた。1～3号トレンドにおいてアカホヤ火山灰(5層)より下位の9、10層より焼穂數点が出土した他、2号トレンドにて炉穴1基が確認された。

炉穴は2号トレンドの西隣、南壁にかかる状態で検出された。検出面は11層上面であるがトレンド壁面の土層より10層中から掘り込まれていたと考えられた。輪方向はN-20°-E、平面形は隅丸方形を呈し、検出面においては長軸約1.7m、短軸約1.1mを測る、南端に煙道が付く。ブリッジは崩落していた。検出面からの深さは約40～50cm、底面北側はほぼ平坦で、中央から南に向かい一段下がる。この一段下がった部分の埋土より焼土が検出されている。

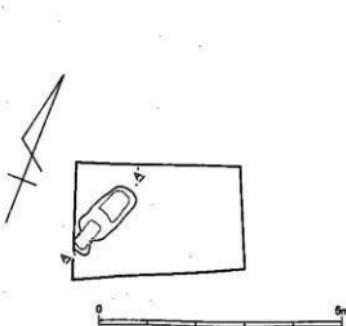


第4図 豊広遺跡トレンド配置図(1/1,000)

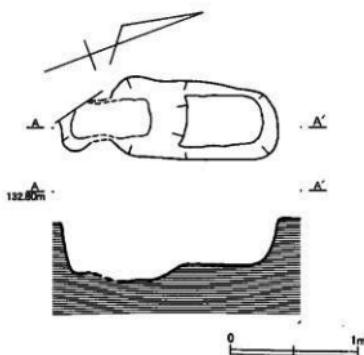


- やややわらかい。黒褐色砂質土をごく少量含む。
しまり無い。褐色粒子をごく少含む。
- 非常にしまりが強く、硬質。褐色粒子をごく微量含む。
- やややわらかい。褐色粒子、白色粒子、白色角子をごく少量含む。
- やや硬い。褐色粒子、白色角子をごく少量含む。
- やや硬い。褐色角子をごく微量含む。
- やや硬い。褐色角子をごく微量含む。
- 非常に固い。ブロック状になたた褐色土を多く、褐色角子をごく微量含む。
- 非常に固い。2~5mmの小礫やや多く含む。褐色角子をごく微量含む。
- 褐色を多量に含む層部

第5図 豊広遺跡トレンチ土層図(1/60)



第6図 豊広遺跡2号トレンチ遺構分布図(1/100)



第7図 豊広遺跡出土炉穴実測図(1/40)



図版1 豊広遺跡調査区全景



図版2 豊広遺跡1号トレンチ・アカホヤ火山灰



図版3 豊広遺跡1号トレンチ



図版4 豊広遺跡2号トレンチ



図版5 豊広遺跡2号トレンチ・炉穴



図版6 豊広遺跡3号トレンチ



図版7 豊広遺跡5号トレンチ



図版8 豊広遺跡6号トレンチ

2 下野遺跡

位置と環境

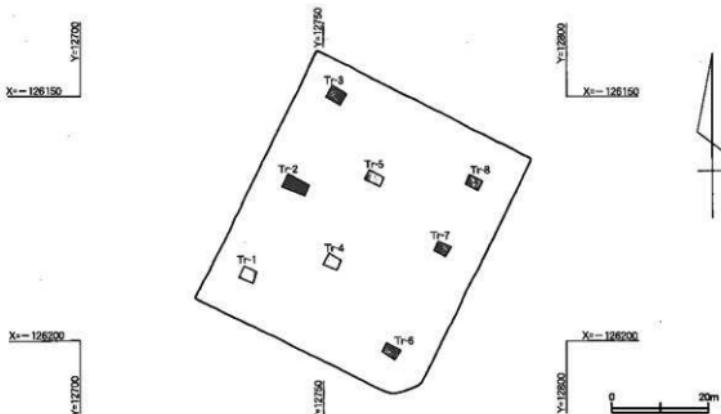
「下野遺跡」は有水地域に広がる台地群のほぼ中央、大淀川より東へ約1.5km、有水川より北へ約1.7kmに位置し、四方を谷によって切られた南北約600m、東西約700mの成層シラス台地上に立地する。標高は約150～160m、東側に最高地をもち南西に向かい緩やかに下る。台地縁辺に複雑に刻まれた谷部との比高差は約20m～30mである。台地上のほぼ全域が「町内遺跡分布調査報告」(1998高城町教育委員会)において縄文時代・弥生時代の遺物散布地として記録されている。その中央部においては平成10年度に葉タバコ反転客土事業に伴う発掘調査が実施され、掘建柱建物2軒、縄文時代～平安時代にかけての遺物が出土している。また谷を挟み西側台地に「上原遺跡群」、東側台地に「中野第1遺跡」が位置している。事業予定地は遺跡範囲の中央東端付近に位置し、現在は畠地として利用されている。

調査の内容

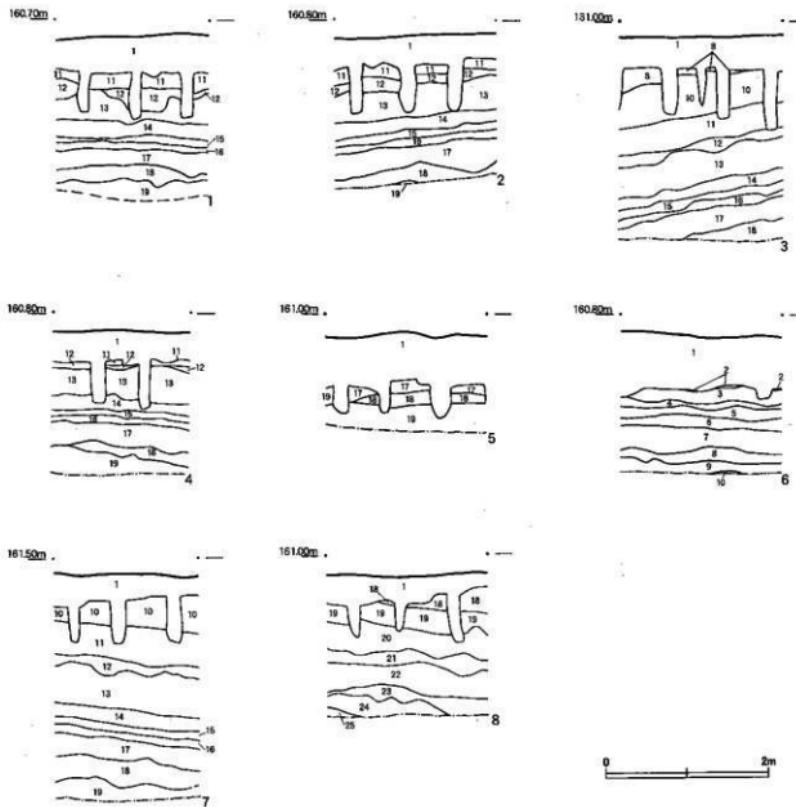
2m×3mを基本とするトレンチ8本を設定し、調査の進行に従い1～8号トレンチと命名した。いずれも重機を使用して掘下げ、調査員と作業員により遺構・遺物の確認を行った。

各トレンチとも現地表面から約1mの深さまで牛蒡栽培時のトレンチャー使用による深耕からの攪乱をうけている。また耕作土直下層がそれぞれ異なっており、幾つかのトレンチでは層位の傾斜も確認されるなど様々な様相を呈していたが、トレンチャーによる攪乱以下は比較的良好な状態を保っていた。1、2、4号トレンチにおいては霧島御池輕石(10層)以上が完全に消失し、3、7号トレンチでは同層の上面までが削平をうけていた。5、8号トレンチにおいては霧島御池輕石、アカホヤ火山灰を含め、17層以上が消失していくが、6号トレンチでは霧島御池輕石上位の黒灰色輕石(5層他)が良好に残存していた。堆積状況より旧地形は調査区北東付近の最高地より高まりが南西へと延び、両側が緩やかに下る斜面を形成していたと推測され、その地形が畠の造成等により大きく改変されている状況が伺えた。また6号トレンチにおいて確認された黒灰色輕石は、10～13世紀に噴出した霧島御鉢起源の高原スコリアに該当すると考えられる。

いずれのトレンチにおいても明確な遺構・遺物の出土は確認されていない。



第8図 下野遺跡トレンチ配置図(1/1,000)



- 1 灰色土
 2 白色火成岩
 3 黑褐色土 (1992/1)
 4 黑褐色土 (1992/1)
 5 黑褐色土 (1992/1)
 6 黑褐色土 (1991/7)
 7 黑褐色土 (1992/2)
 8 黑褐色土 (1993/1)
 9 黑褐色土 (1993/1)
 10 黑褐色冲积带
 11 黑褐色土 (1992/1)
 12 黑褐色冲积带
 13 黑褐色土 (1994/6)
 14 黑褐色土 (1992/2)
 15 黑褐色土 (1992/1)
 16 黑褐色土 (1993/7)
 17 黑褐色土 (1992/7)
 18 黑褐色土 (1992/4)
 19 黑褐色土 (1992/4)
 20 黑褐色土 (1992/4)
 21 黑褐色土 (1994/6)
 22 黑褐色土 (1995/6)
 23 にじいろ火成岩 (1994/4)
 24 白色土 (7. 978/4)
 25 黑褐色冲积土 (1995. 6/6)
- しまり無い。0mm程度の黒褐色をやや多く含む。
 しまり無い。0mm程度の黒褐色をやや多く含む。
 しまり無い。0mm程度の黒褐色をやや多く含む。
 しまり無い。1mm程度の黒褐色を多く含む。(上)に含む。
 やややわらかい。1mm程度の黒褐色を多く含む。
 やややわらかい。黒褐色冲积石を多く含む。
 やややわらかい。黒褐色冲积石を多く含む。
 やややわらかい。黒褐色冲积石を少々含む。
 8層と西じだが黒褐色冲积石を多量に含む。
 やややわらかい。1mm程度の黒褐色をごく微量含む。
 しまり無い。白色粘土をごく少々含む。
 非常にしまりが強く堅硬。赤色粘土をごく微量含む。
 やややわらかい。白色粘土、白色粘土をごく少々含む。
 やや硬い。赤色粘土、白色粘土をごく少々含む。
 やや硬い。赤色粘土、白色粘土をごく微量含む。
 やや硬い。白色粘土をごく微量含む。
 非常に硬い。ブロック状の砂質粘土が多く、赤色粘土をごく微量含む。
 しまり無い。2mmよりやや硬く、ブロック状の砂質粘土が少なく、赤色粘土を含まない。
 しまり無い。3mmよりやや硬く。3mm以上の黑色粘土を含む。
 しまり無い。5mm程度の黑色粘土をやや多く含む。
 しまり無い。5mm程度の黄色粘土。
 しまり無い。明るめの黄色粘土。明るめの黄色粘土をやや多く含む。

第9図 下野遺跡トレンチ土層図(1/60)



図版9 下野遺跡全景



図版10 下野遺跡1号トレンチ



図版11 下野遺跡2号トレンチ土層



図版12 下野遺跡4号トレンチ



図版13 下野遺跡5号トレンチ



図版14 下野遺跡7号トレンチ・アカホヤ火山灰



図版15 下野遺跡7号トレンチ



図版16 下野遺跡作業風景

3 中野第1遺跡

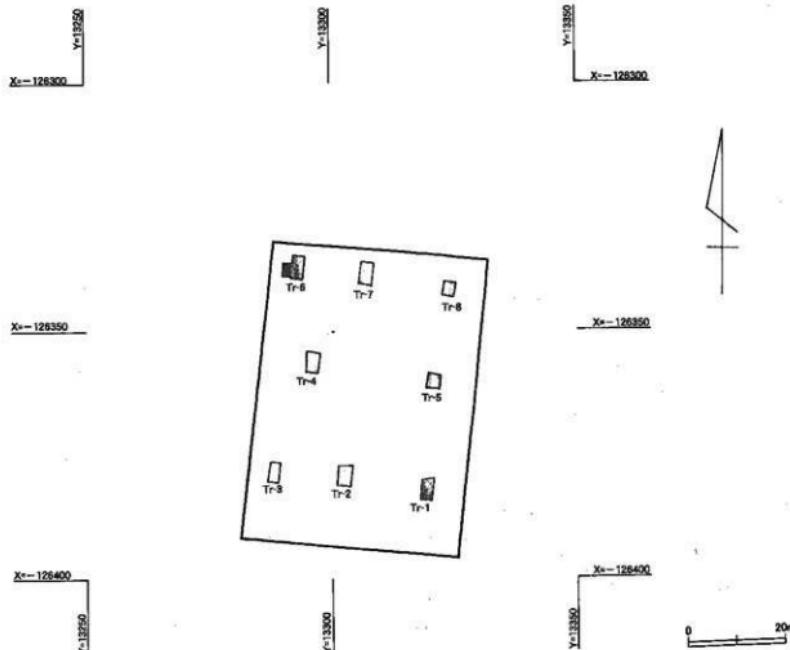
立地と環境

「中野第1遺跡」は有水地域に広がる台地群のほぼ中央、大淀川より東へ約2km、有水川より北へ約1.2km位置し、南北約650m、東西約300mの成層シラス及びシラス台地上に立地する。標高は約160～155m、東側に最高地をもち南西に向かい緩やかに下る。「町内遺跡分布調査報告」(1998高城町教育委員会)において台地上のほぼ全域が縄文時代・弥生時代の遺物散布地として記録されている。事業予定地は遺跡範囲のほぼ中央に位置し、現在は畑地として利用されている。

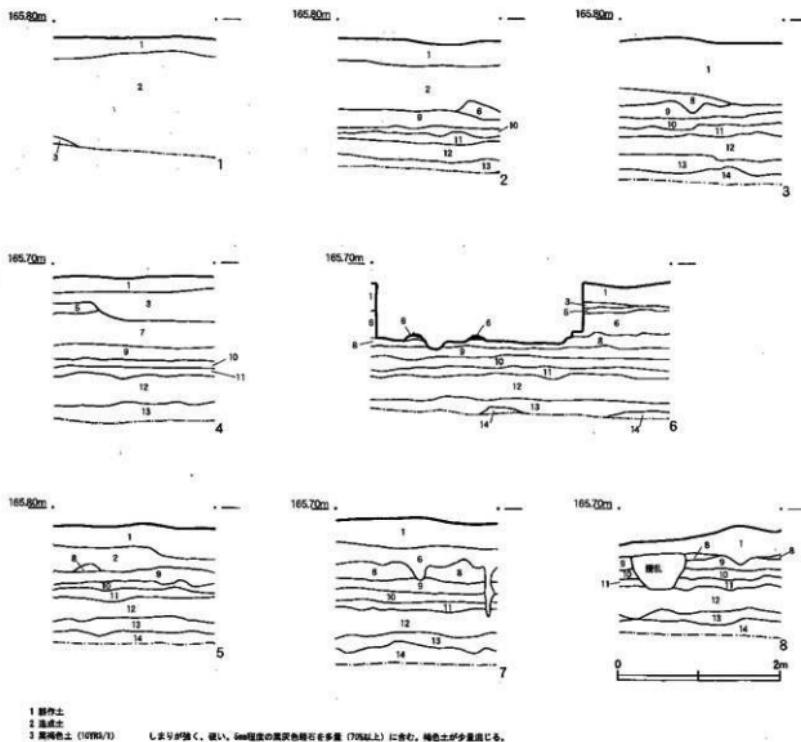
調査の内容

2m×3mを基本とするトレンチ8本を設定し、調査の進行に従い1～8号トレンチと命名した。いずれも重機を使用して掘下げ、調査員と作業員により遺構・遺物の確認を行った。

1号トレンチで厚い造成土の下から霧島御池輕石(4層)が検出されるなど、各トレンチ共、耕作土、造成土直下層は様々であったが、全体的にアカホヤ火山灰(8層)もしくはそれ以下においては比較的良好な状態を保っていた。アカホヤ火山灰は有水地域の他の遺跡での検出状況と比べその堆積は薄く、やや不安定な様相であり、二次堆積的な層かとも考えられた。調査区北側を中心に狭い範囲で検出されたアカホヤ火山灰直上の褐色土(6層)中より縄文時代晚期に位置する土器片が出土しており、この層が遺物包含層となる。5号トレンチにおいてはアカホヤ火山灰がブロック状に混じる褐色土(8層)上に、黒灰色輕石が多量に含まれる黒褐色土(3層)が確認され、この輕石は10～13世紀に噴出した霧島御鉢起源の高原スコリア



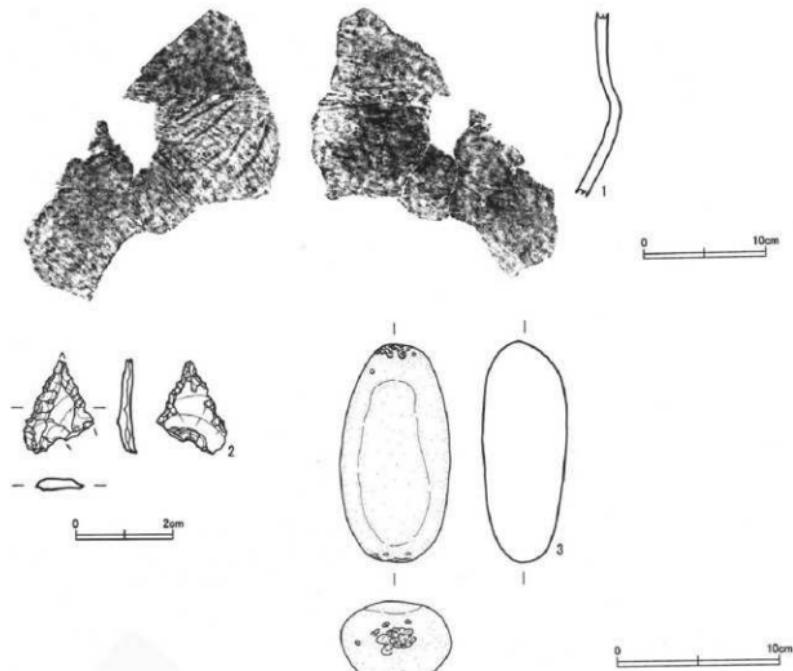
第10図 中野第1遺跡トレンチ配置図(1/1,000)



- 1 黒色土
- 2 砂岩
- 3 黒褐色土 (10YR4/7) しまりが強く、硬い。5cm程度の黒褐色鉄石を多量(7%以上)に含む。褐色土が少量混じる。
- 4 黒褐色泥炭灰
- 5 黒褐色土 (10YR4/7) やややからかしい。鉄色鉄石をごく少量含む。
- 6 黒褐色土 (10YR4/4) やや硬く、しりりは良好。アカホヤ山底の粘子、また阿久山底をブロック状にごく少量含む。
- 7 硫酸土 (10YR4/4) しまりが強く、硬い。下部にアカホヤ山底をブロック状に少量含む。
- 8 アカホヤ火山
- 9 黒褐色土 (10YR4/7)
- 10 黒褐色土 (10YR4/7) おなじしまりが強く、硬質。表面粘子をごく少量含む。
- 11 黒褐色土 (10YR3/7) ややからかしい。鉄色鉄石、白鉄鉄石をごく少量含む。
- 12 黒褐色土 (10YR3/7) やや硬い。白色粘子、白鉄鉄石をごく少量含む。
- 13 黑褐色土 (10YR3/4) やや硬い。白色粘子をごく少量含む。
- 14 墓園黑色土 (10YR3/4) 非常に硬い。ブロックになった墓園黑色土を多く。褐色粘子をごく微量含む。

第11図 中野第1遺跡トレンチ土層図(1/60)

に該当すると考えられる。堆積状況より旧地形はわずかな高低差をもちつつ、台地の端である調査区東南へ向け下っていたと推測された。また5号トレンチにて8層直上より高原スコリアが検出され、6層より縄文時代晚期土器片が出土するなど、調査区の大半においては元より霧島御池軽石の堆積はなかったものと考えられる。いずれのトレンチにおいても明確な遺構の出土は検出されなかつたが、6号トレンチ拡張部より土器片、石器が、表探において土器片が出土している。1は黒色磨研土器の深鉢である。頸部と肩部の境にやや丸みを帯びた屈曲をもち、頭部は外反しながら立ち上がる。2は石鎌で石材は黒曜石である。平面形態は正三角形を基調とし、基部に抉りをもつ圓基である。先端と右脚部を欠損する。3は敲石である。石材は砂岩で長軸両端に敲打痕をもつ。



第12図 中野第1遺跡出土遺物実測図(1=1/4 2=1/1 3=1/3)

表2 中野第1遺跡出土土器観察表

No.	出土位置	出土層位	種別	部位	手ぬ・文様		色調		断土	備考
					外表面	内部面	外面	内面		
1号トレンチ底張部	6層	調文土器	瓶部・脚部	ハラミガキ	ナダ・一部ハラミガキ		墨褐色(TTB3/2)	暗栗色(STB4/6)	1mm以下白色粉少見・1mm以下黑色粒、雷母頭量	

表3 中野第1遺跡出土石器観察表

No.	出土位置	出土層位	種別	器種	測量				石材	備考
					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
2号トレンチ底張部	6層		石器	石鏃	(1.88)	(1.43)	0.3	0.5	黑曜石	
3号トレンチ底張部	6層		石器	敲石	13.25	6.81	5.08	670	砂岩	



図版17 中野第1遺跡全景



図版18 中野第1遺跡2号トレンチ



図版19 中野第1遺跡4号



図版20 中野第1遺跡6号トレンチ土層



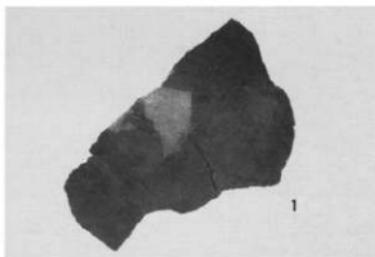
図版21 中野第1遺跡6号トレンチ土器出土状況



図版22 中野第1遺跡7号トレンチ



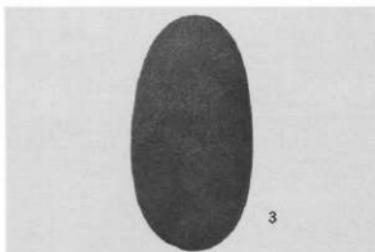
図版23 中野第1遺跡作業風景



図版24 中野第1遺跡出土遺物Ⅰ



図版25 中野第1遺跡出土遺物Ⅱ



図版26 中野第1遺跡出土遺物Ⅲ

4 久井ヶ野第1遺跡

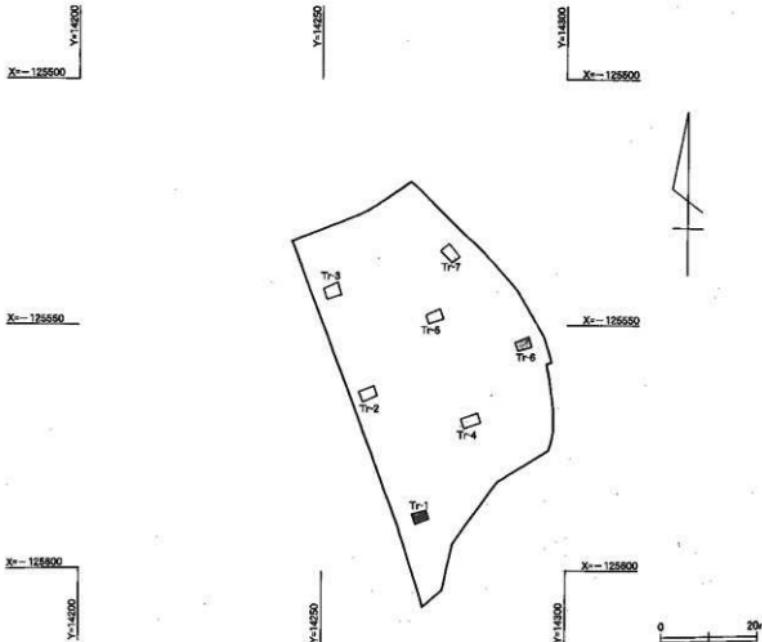
立地と環境

「久井ヶ野第1遺跡」は有水地域に広がる台地群の東端、大淀川より東へ約2.4km、有水川より北へ約2kmに位置し、南北約500m、東西約1,000mの東西に長いシラス台地上に立地する。台地東側は九州山地—南那珂山地間の小起伏山地内岩骨山地に接し、南西側は「中野第1遺跡」のある台地との間に形成される標高約200mの独立山地に接している。標高は約165～175m、独立山地に接する南西部に最高地があり、北東に向かい緩やかに下る。台地縁辺には谷が複雑に入り組んでいる。「町内遺跡分布調査報告」(1998高城町教育委員会)において台地上のほぼ全域が縄文時代・弥生時代・平安時代の遺物散布地として記録されている。事業予定地は遺跡範囲のほぼ中央南側、台地縁辺部に位置し、現在は畠地として利用されている。

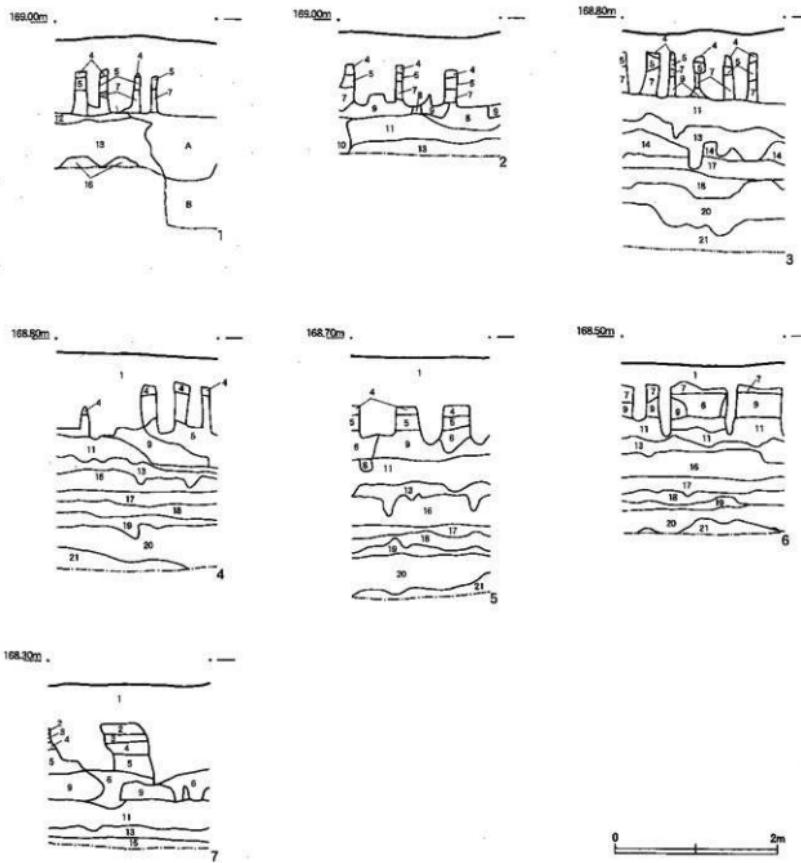
調査の内容

2m×3mを基本とするトレンチ7本を設定し、調査の進行に応じて1～7号トレンチと命名した。いずれも重機を使用して掘下げ、調査員と作業員により遺構・遺物の確認を行った。

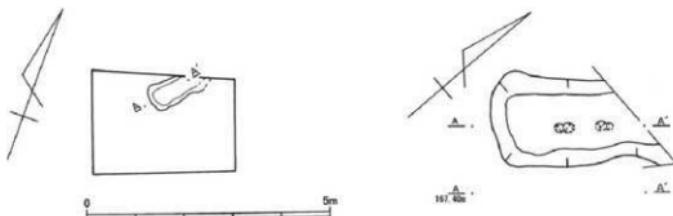
各トレンチとも現地表面から約1.5mの深さまで牛蒡栽培時のトレンチャーレンチによる深耕からの搅乱が進行しており、霧島御池軽石層の大部分が影響をうけていた。また霧島御池軽石、アカホヤ火山灰共に、有水地域における他の調査区と比してその堆積は薄く、さらには堆積が確認できない部分もある。全体的にアカホヤ火山灰以下については比較的良好な堆積状況であったが、それ以上についてはトレンチャーレンチによる搅乱もありやや不安定な状況が見受けられた。堆積状況より旧地形は調査区西側が高く、北東に向



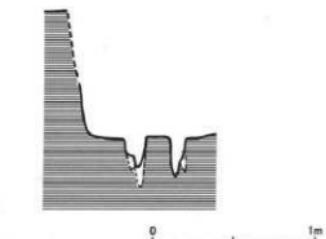
第13図 久井ヶ野第1遺跡トレンチ配置図(1/1,000)



第14図 タガシ野第1遺跡トレンチ土層図 (1/60)



第15図 久井ヶ野第1遺跡1号トレンチ遺構分布図(1/100)



第16図 久井ヶ野第1遺跡出土陥し穴実測図(1/30)

下る緩やかな斜面であったと推測された。1号トレンチにおいて落し穴状遺構1基が出土したが、いずれのトレンチからも遺物の出土は確認されなかった。

陥し穴状遺構は1号トレンチ北面、東面にかかる状態で検出された。検出面はアカホヤ火山灰層上面であるが、トレンチ北面土層より12層より掘り込まれたものと考えられた。埋土は2層にしか分層できず、上位が霧島御池軽石、下位が暗褐色土となる。軸方向はN-41°-E、平面形は隅丸長方形と考えられ、検出面においては長軸95cm、短軸55cm、底面においては長軸85cm、短軸35cmを測る。検出面からの深さは75cm、12層上面からの深さは140cmである。底面より二本一組の形で長軸方向に並ぶ4本の逆茂木が検出された。両逆茂木の間隔は約12cmで、形状は三角錐形で深さは20~30cmである。



図版27 久井ヶ野第1遺跡全景



図版28 久井ヶ野第1遺跡1号トレンチ



図版29 久井ヶ野第1遺跡1号トレンチ・陥し穴



図版30 久井ヶ野第1遺跡1号トレンチ・陥し穴逆茂木



図版31 久井ヶ野第1遺跡2号トレンチ・アカホヤ火山灰



図版32 久井ヶ野第1遺跡3号トレンチ・霧島御池軽石



図版33 久井ヶ野第1遺跡4号トレンチ



図版34 久井ヶ野第1遺跡6号トレンチ・霧島御池軽石



図版35 久井ヶ野第1遺跡6号トレンチ・アカホヤ火山灰

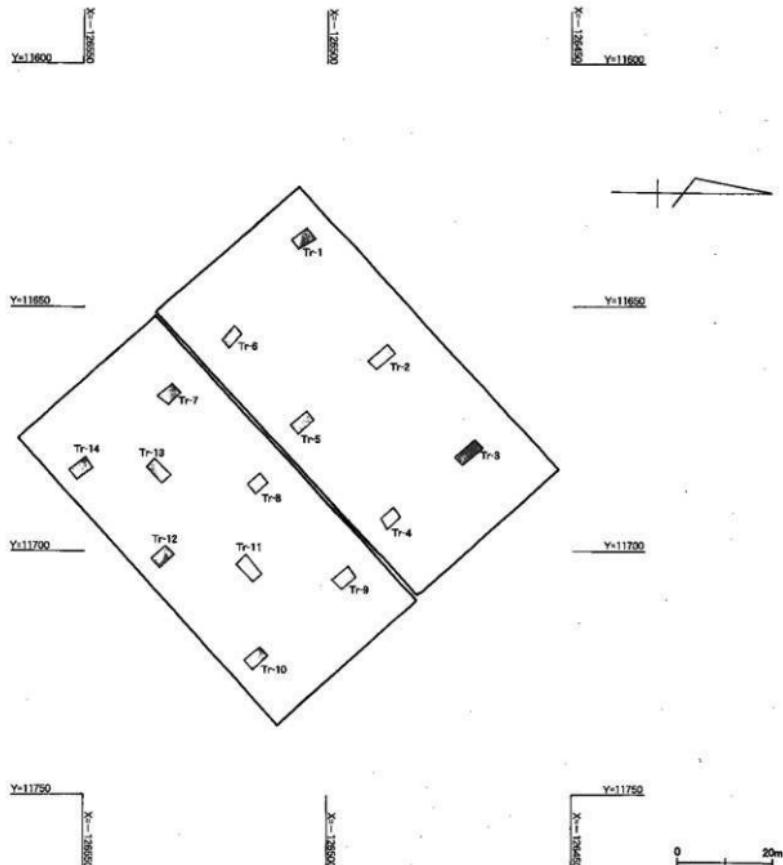


図版36 久井ヶ野第1遺跡6号トレンチ

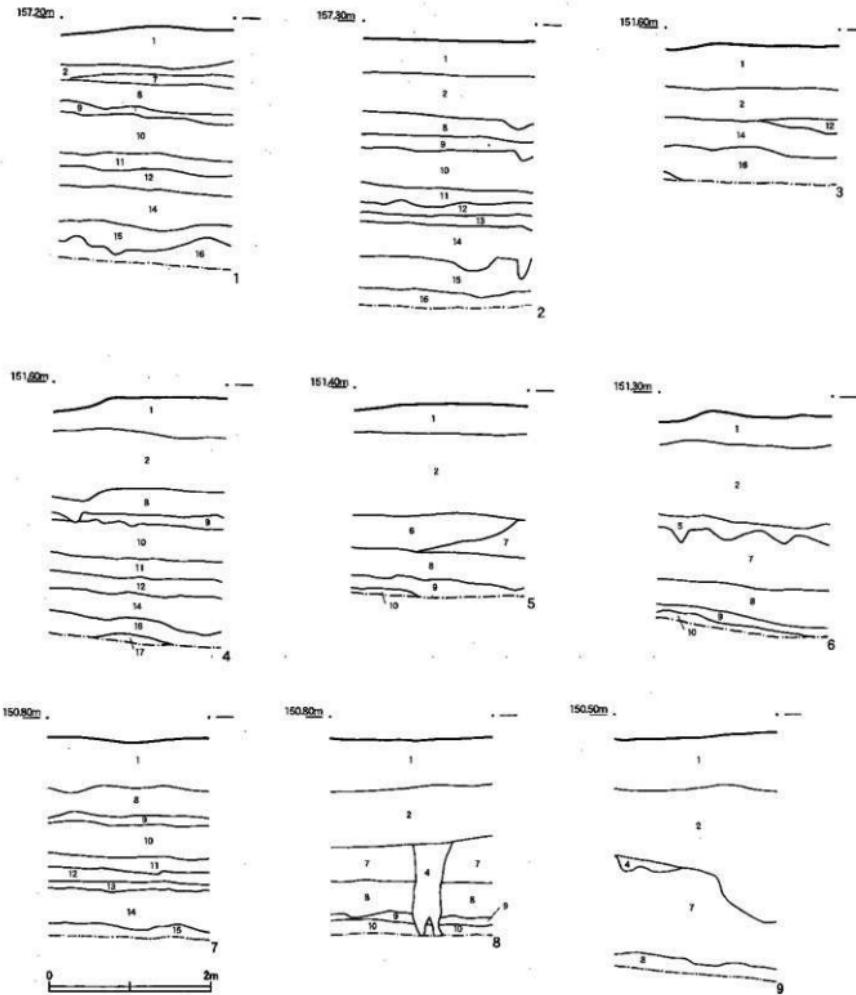
5 上原遺跡群

立地と環境

「上原遺跡群」は有水地域に広がる台地群の西端、大淀川より東へ約0.5km、有水川より北へ約1.0kmに位置し、南北約2,000m、東西約500mの南北に細長い成層シラス台地上に立地する。標高は約150m、台地北部が高く、南に延びるに従い緩やかに下る。台地縁辺には幾本もの谷が刻まれ、入り組んだ地形を形成している。「町内遺跡分布調査報告」(1998高城町教育委員会)において縄文時代・古墳時代・中世の遺物散布地として記録されている。事業予定地は遺跡範囲の南部、平成4年度に県営ほ場整備事業に伴い露島軽石層上までが調査され、縄文時代竪穴住居跡8軒、古墳時代竪穴住居跡14軒、中世掘立柱建物跡10軒等が出土した上原遺跡(第1次調査区)内に位置する。また調査区西側には町指定史跡須田木城址、谷を挟んだ東側台地には「豊広遺跡」、「下野遺跡」が位置している。現在は畑地として利用されている。



第17図 上原遺跡群トレンチ配置図(1/1,000)

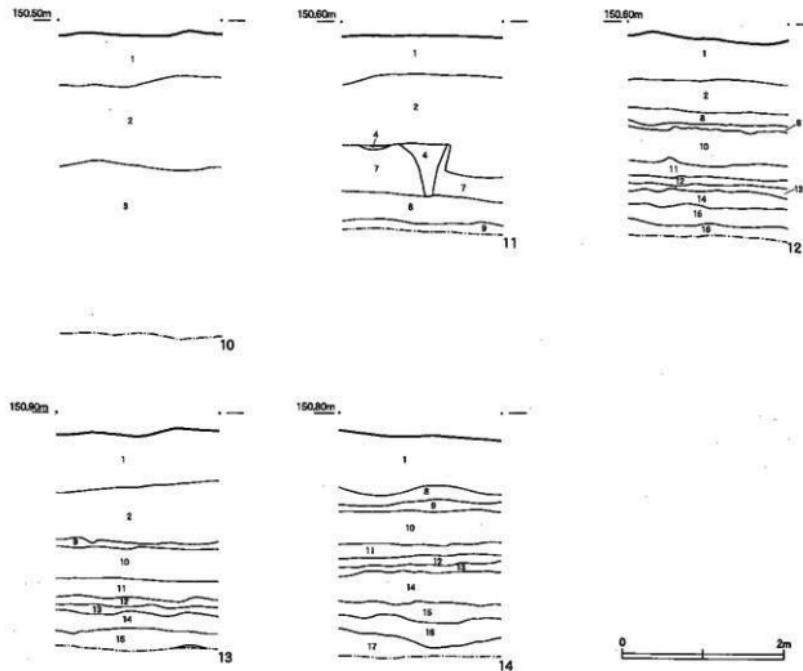


第18図 上原遺跡群トレンチ土層図 I (1/60)

調査の内容

2m×3mを基本とするトレンチ14本を設定し、調査の進行に応じて1～14号トレンチと命名した。いずれも重機を使用して掘下げ、調査員と作業員により遺構・遺物の確認を行った。

は揚整備事業の影響により霧島御池軽石(7層)の大半は削平をうけ、消失している部分もあったが、同軽



- 1 耕作土
2 草地土
3 造林土
4 黑褐色土 (1992/1) しまりが強く、やわらかい。黒褐色鉄鉱石を少量。(4cm程度) 含む。
5 黑褐色土 (1992/2) しまりが強く、やわらかい。黒褐色鉄鉱石を少量含む。
6 黒褐色鉄鉱石 2次堆積
7 黒褐色鉄鉱石
8 黒褐色土 (1992/1) やややわらかい。鉄色鉄石をごく少量含む。
9 黒褐色土 (1992/2) しまり強い。1~2cmの鉄色鉄石をごく少量含む。
10 テカカルク質土
11 黑褐色土 (1992/2) 非常にしまりが強く、硬質。赤色鉄石をごく少量含む。
12 黑褐色土 (1992/1) しまり強い。1~3cmの鉄色鉄石。黄褐色鉄鉱石を少量含む。
13 黑褐色土 (1992/2) しまり強い。1~3cmの鉄色鉄石。黄褐色鉄鉱石を少量含む。
14 黑褐色土 (1992/2) しまり強い。褐色、白色鉄石をごく少量含む。
15 黄褐色土 (1994/5) しまり強い。1~3cmの褐色土。
16 黄褐色土 (1994/5) 非常にしまりが強く硬い。1~3cmの褐色土。白色鉄石をごく少量含む。黒褐色土をブロック状に少量含む。
17 にじみ黒褐色土 (1993/4) 非常にしまりが強く硬い。17層と同じブロック状の黒褐色土を微量。褐色鉄石をごく少量含む。

第19図 上原遺跡群トレンチ土層図 II (1/60)

石より下層については概ね良好な状態であった。また耕作土、造成土直下層は7、8層を中心としているが、3号トレンチではアカホヤ火山灰(10層)まで削平され、10号トレンチにおいては2m以上にわたる厚い造成土が確認されている。堆積状況より旧地形は調査区の中央から東方に向かいごく緩やかな斜面となり、東端において大きな落ち込みを形成していたと推測された。

いずれのトレンチにおいても明確な遺構、遺物の出土は確認されていない。



図版37 上原遺跡群全景



図版38 上原遺跡群 1号トレンチ



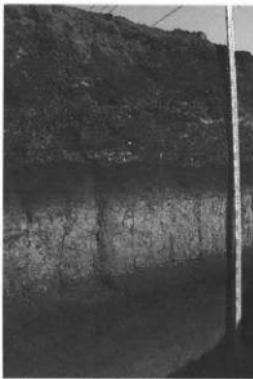
図版39 上原遺跡群 2号トレンチ



図版40 上原遺跡群 4号トレンチ・アカホヤ火山灰



図版41 上原遺跡群 5号トレンチ



図版42 上原遺跡群12号トレンチ土層



図版43 上原遺跡群作業風景

II NTTドコモ高城北基地局建設に伴う埋蔵文化財確認調査・三俣城址

調査に至る経緯

本確認調査は株式会社NTTドコモ九州が計画した携帯電話基地局(鉄塔)建設に起因する。

平成17年12月6日、株式会社志多組より事業予定地内における埋蔵文化財の所在について照会があった。事業予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である「三俣城址」内に位置していたため、事業者と協議を行い、平成17年12月12日、13日にかけて確認調査を実施することとなった。

位置と環境

「三俣城址」は都城盆地の北東部にあたる旧高城町域の南部に位置し、南那珂河山地青井岳より西に延びる山地と、やや蛇行しながら北流する大淀川との間に形成されたシラス台地上に立地する。標高約150m、東へとやや下る地形となり、西側には江戸時代に築造された農業用溜池「観音池（定満池）」がある。「町内遺跡分布調査報告」（1998高城町教育委員会）において中世城址として記録されている。三俣城は石山城とも呼称され、南約2kmに位置し肝付兼重、北郷忠相等の居城でもあった三俣院高城の支城とされるが、隣接する観音池周辺の公園化や、宅地、畠地の造成により城跡としての遺構等は現状では確認できていない。事業予定地は遺跡範囲の西端、台地縁辺部に位置し、現在は畠地として利用されている。

調査の内容

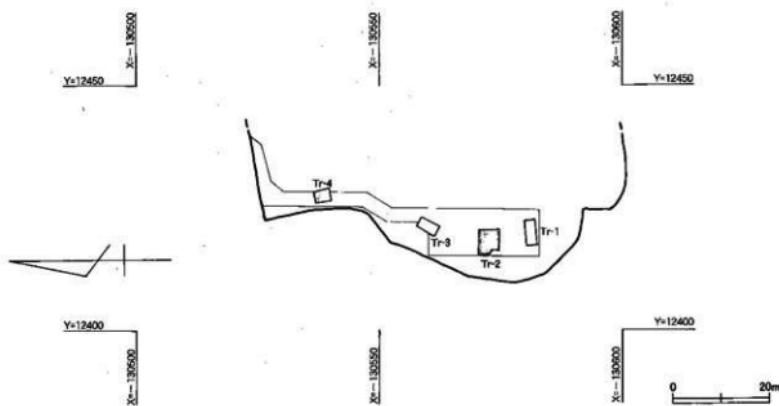
2m×3mを基本とするトレンチ4本を設定し、調査の進行に従い1～4号トレンチと命名した。いずれも重機を使用して掘下げ、調査員と作業員により遺構・遺物の確認を行った。

2号トレンチにおいて霧島御池火山灰層上面が削平を受けていたほかは、非常に良好な状態を保っていた。堆積状況より旧地形は平坦な台地上から北側4号トレンチ方向へ向かいやや下っていたと推測された。

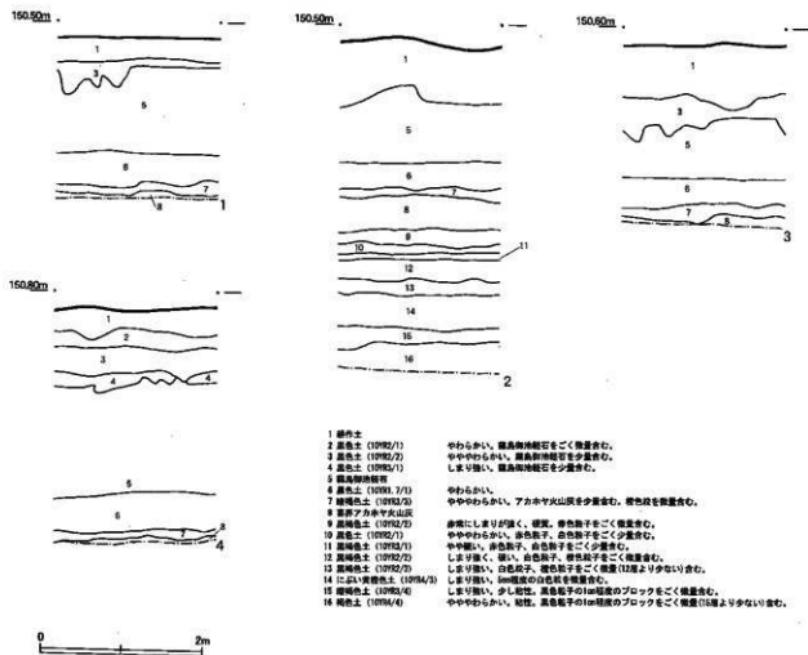
いずれのトレンチにおいても明確な遺構の出土は確認できず、遺物は表探にて須恵器片1点、綱文土器片2点、土器片2点、2号トレンチにおいて1点の綱文土器片が出土したのみであった。



第20図 三俣城址調査地位図(1/5,000)



第21図 三侯城址トレンチ配置図(1/1,000)



第22図 三侯城址トレンチ土層図(1/60)



図版44 三侯城址全景



図版45 三侯城址 2号トレンチ



図版46 三侯城址 2号トレンチ土層



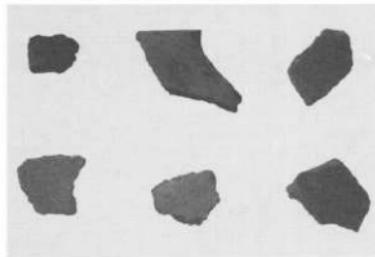
図版47 三侯城址 3号トレンチ



図版48 三侯城址 4号トレンチ



図版49 三侯城址作業風景



図版50 三侯城址出土遺物

報告書抄録

ふりがな	しないいせきはくつちょうさ（きゅうたかじょうちうないいせきはくつちょうさ）						
書名	市内遺跡発掘調査（旧高城町内発掘調査）						
シリーズ名	都城市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第73集						
編集者名	近沢恒典						
編集機関	都城市教育委員会						
所在地	宮崎県都城市高城町穂満坊46番地2						
発行年月日	2006年3月						
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 東経	調査期間	調査面積	調査原因	
豊広遺跡	都城市高城町有水字豊広	463439 5022	31° 51' 51" 131° 07' 42"	2004.9.26~28	36	たばこ反転客土事業	
所収遺跡名	種別	主な時代			主な遺構	主な遺物	特記事項
豊広遺跡	散布地	縄文時代~古墳時代			炉穴		
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 東経	調査期間	調査面積	調査原因	
下野遺跡	都城市高城町有水字下野	463439 5023	31° 52' 11" 131° 07' 48"	2004.9.29~10.5	48	たばこ反転客土事業	
所収遺跡名	種別	主な時代			主な遺構	主な遺物	特記事項
下野遺跡	散布地	縄文時代~弥生時代					
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 東経	調査期間	調査面積	調査原因	
中野第1遺跡	都城市高城町有水字中野	463439 5029	31° 51' 49" 131° 06' 15"	2004.10.6~12	48	たばこ反転客土事業	
所収遺跡名	種別	主な時代			主な遺構	主な遺物	特記事項
中野第1遺跡	散布地	縄文時代~弥生時代				陶瓦土器 石器 磨石	
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 東経	調査期間	調査面積	調査原因	
八井ヶ野第1遺跡	都城市高城町有水字久井ヶ野	463439 5036	31° 52' 14" 131° 06' 53"	2005.10.19~24	42	たばこ反転客土事業	
所収遺跡名	種別	主な時代			主な遺構	主な遺物	特記事項
八井ヶ野第1遺跡	散布地	縄文・弥生・平安			墓穴		
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 東経	調査期間	調査面積	調査原因	
上原遺跡群	高城町大字有水字上原	463439 5068	31° 51' 43" 131° 07' 13"	2005.11.17~22	102	たばこ反転客土事業	
所収遺跡名	種別	主な時代			主な遺構	主な遺物	特記事項
上原遺跡群	散布地	縄文時代~古墳時代~古代~中世					
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 東経	調査期間	調査面積	調査原因	
三俣城址	都城市高城町山石屋城ヶ尾	463439 4006	31° 49' 21" 131° 07' 52"	2005.12.12~15	24	携帯電話鉄塔建設	
所収遺跡名	種別	主な時代			主な遺構	主な遺物	特記事項
三俣城址	城址	中世					

都城市文化財調査報告書第73集
市内遺跡発掘調査
(旧高城町内遺跡発掘調査)

2006年3月 発行

編集・発行 都城市教育委員会
宮崎県都城市高城町徳満坊46番地2
郵便番号885-1202 電話番号0986-58-2317

印刷・製本 ㈲アマガミ印刷
宮崎県都城市高城町徳満坊144番地4
郵便番号885-1202 電話番号0986-58-5851